

ソウル日本人学校

Seoul Japan School

No. 21-002-2010更新

新築
学校

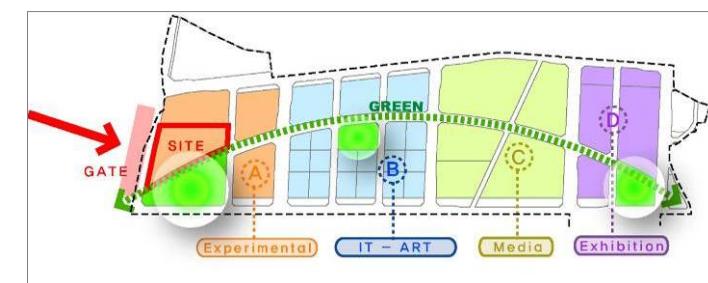
発注者	ソウルジャパンクラブ
設計・監理	株式会社フジタ一級建築士事務所 間三パートナーズ(韓国)
施工	株式会社フジタ ソウル支店

カテゴリー
A. 環境配慮デザイン
B. 省エネ・省CO2技術
C. 各種制度活用
D. 評価技術／FB
E. リニューアル
F. 長寿命化
G. 建物基本性能確保
H. 生産・施工との連携
I. 周辺・地域への配慮
J. 生物多様性
K. その他

ラーニングセンターを中心としたコミュニケーションを誘発する教育の場の創造

ソウル市内の最先端地区に計画される小中一貫校

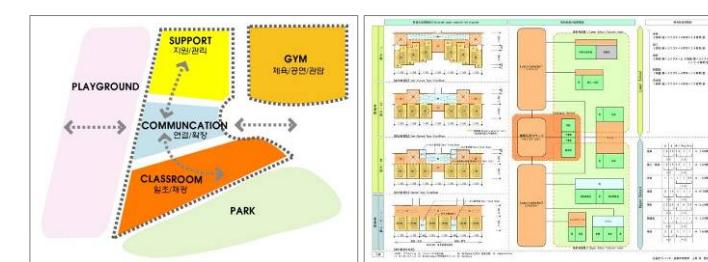
ソウル日本人学校は旧校舎の老朽化に伴い、ソウル市内でもこれから発展が期待されているDMC地区(デジタルメディアシティ地区)に計画される幼稚園と小中一貫校を併設する学校建築である。計画地はこの地区的西端部にあたり、地区的グリーンベルトと街区公園に隣接している。公園と一緒に計画をなす外構緑化、地区的エッジとして人々を受け止める建築形態、周辺の先進的な建築群と調和したファサードデザインしながらも、海外の日本人学校の特徴ある教育プログラムに対応した建築計画に基づく空間構成により、子供達同士のコミュニケーションや異文化交流を誘発する教育の場を創造している。



外観イメージ

交流の場となるラーニングセンター(LC)

学校の中心に配置したラーニングセンターは各学年のオープンスペースとつながり、異なる学年の交流を促すとともに、国際交流が盛んな海外の日本人学校において異文化交流を行なうための場所として設定され豊かな中間領域を形成する。



ゾーニング

各教室とLCのつながり



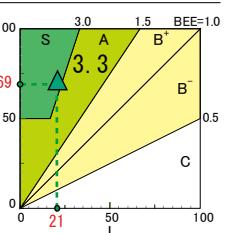
ラーニングセンターイメージ

建物データ

所在地	ソウル市麻浦区上岩洞DMC地区
竣工年	2009 年
敷地面積	13,532m ²
延床面積	15,686m ²
構造	RC造一部S, SRC造
階数	地下1階、地上5階

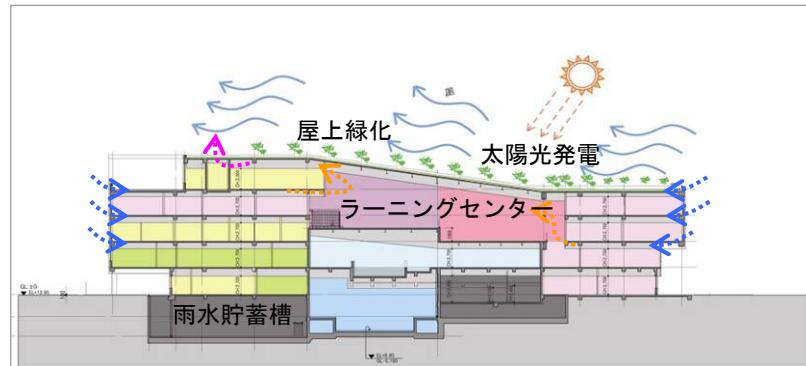
CASBEE評価

Sランク
BEE=3.3
2008年度版
自己評価

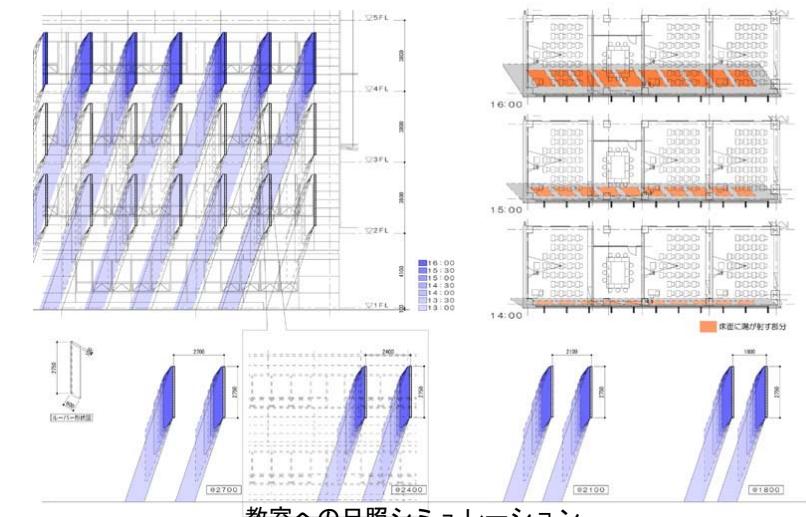


自然エネルギーの利用と熱負荷の抑制

屋上緑化や部分的な壁面緑化による建物への環境負荷低減に併せ、Low-Eペアガラスと外断熱を採用することで、夏は暑く冬は非常に寒いソウルの気候に対してエネルギー消費を低減する計画となっている。またラーニングセンターの吹抜けを利用した自然換気、ルーバーや庇による日照のコントロールにより建物内環境を良好に保つとともに、トップライトのガラス面に設置される太陽光フィルムによる太陽エネルギーの視覚化などにより子供たちの環境教育を行うきっかけとしている。



断面計画と自然エネルギーの有効利用



教室への日照シミュレーション



シミュレーションに基づくルーバー形状の検討



オープンスペースのイメージ

現日本人学校の豊かな自然

変化する教育プログラムに対応可能な教室廻り

オープンクラス、セミオープンクラス、クローズドクラスと各学年のプログラムに合わせた教室とオープンスペースの繋がりを計画することで、将来への教育プログラムに柔軟に対応可能な空間を実現している。これにより建替えの建築サイクルを延伸することが可能となり長期的な視点で環境負荷を低減する建築となることが期待できる。

豊かな自然を残す

現在の日本人学校の敷地には30年の歴史の中で育てられた記念樹を含む多様な樹木がある。学校移転後、伐採されてしまうこれらの樹木を新しい日本人学校の敷地に移植を行うことで、これまでの学校の歴史を残しながら、アメニティや子供達の運動能力の向上を担保する緑豊かな外部空間を創出する。

設計担当者 統括：増山哲也／建築：大島亘、杉田久／構造：奥村等、浅野孝／設備：小林直樹、畠明／外構：堀田忠義

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q 3.1. 生物環境の保全と創出（外構緑化、建築緑化）
- Q 3.2. まちなみ・環境への配慮（建物配置やまちなみとの調和、新たなシンボルの形成）
- Q 3.3. 地域性・アメニティへの配慮（豊かな中間領域の形成）
- LR1.1. 建物の熱負荷抑制（高性能ガラス、庇の深い外装、高気密、外断熱）
- LR1.2. 自然エネルギー利用（太陽光発電、自然換気）
- LR2.1. 水資源保護（雨水利用）